

| | | | | | | |
|----------------------------------|---|------------------------------|------------------|------------------------------------|-----|---------|
| 事務事業 | 11022 | 町立保育園障害児保育事業 | 担当課 | 子育て支援課 | 担当係 | 保育係 |
| 計画 後 期 計 画 系 画 | 施策 | 05 子どもを安心して生み育てることができるまちをつくる | 予 算 科 目 | 会計 | 1 | 一般会計 |
| | 取り組み方針 | 160 子どもの発達に応じた支援を充実させる | | 款 | 3 | 民生費 |
| | | | | 項 | 4 | 児童福祉施設費 |
| | | | | 目 | 2 | 保育園費 |
| 法令根拠条例等 | 児童福祉法・志免町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例 | | 個別計画 | | | |
| 実施期間 | <input type="checkbox"/> 30年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 | | H27 年度より開始 | <input type="checkbox"/> 期間限定(複数年) | | 年度～ 年度 |

| | | |
|---|--|--------------------------------------|
| 【事業の目的・内容】(改行は、「Alt」+「Enter」で行ってください) | | 2次評価会議に提出します (左にチェックを入れる) |
| 町立保育園2園に通所する支援を必要とする児童に対して、発達状況等に応じて保育士を配置し、統合保育の中で安全な保育生活を送ることができるようにする。 | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| 【業務内容(町職員の仕事内容)】(改行は、「Alt」+「Enter」で行ってください) | | 主 な 事 業 費 の 内 訳 |
| 配置が必要な「加配保育士」(嘱託職員)の採用申請を行い配置し、賃金等の支払い事務を行う。 | | |
| | | |
| | | |
| | | |

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

| | | |
|------------------------------|--|----------------------------|
| 事務 事業 の 目 的 | ① 手段(主な活動) | ④ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) |
| | 30年度に行った主な活動(※箇条書きで記入) | 指標数値 |
| | 町立保育園3園に加配保育士を配置。 | 名称 単位 29年度 30年度 31年度 |
| | | ア 加配保育士の数 人 10 4 5 (見込) |
| | | イ (見込) |
| | | ウ (見込) |
| ② 対象(誰、何を対象にしているのか) | ⑤ 対象指標(対象の大きさを表す指標) | |
| 町立保育園に通所する障害児等支援を必要とする児童 | 名称 単位 29年度 30年度 31年度 | |
| | ア 障害児等支援を必要とする児童の数 人 26 14 14 (見込) | |
| | イ (見込) | |
| | ウ (見込) | |
| ③ 意図(この事業で、対象をどのような状態にしたいのか) | ⑥ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) | |
| 統合保育の中で、安全な保育生活を送る。 | 名称 単位 29年度 30年度 31年度 | |
| | ア 障害児等支援を必要とする児童の事故件数 件 目標 0 0 0 実績 0 0 | |
| | イ 障害児保育を受けた児童数 人 目標 14 8 5 実績 26 14 | |
| | ウ 目標 実績 | |
| | エ 目標 実績 | |
| | オ 目標 実績 | |

(2) 総事業費の推移

| | | | | | | | |
|-------------|----------------|---------------|----------------|---------------|----------------|--------------|--------------|
| 事 業 費 | 財源内訳(千円) | 29年度 (決算値) | 30年度 (当初予算) | 30年度 (決算値) | 31年度 (当初予算) | 32年度 (計画) | 33年度 (計画) |
| | 国・県支出金、地方債等 | | | | | | |
| | 受益者負担等 | | | | | | |
| | 一般財源 | 22,977 | 11,446 | 7,537 | 6,851 | 6,851 | 6,851 |
| | 合計(A) | 22,977 | 11,446 | 7,537 | 6,851 | 6,851 | 6,851 |
| | (内臨時・嘱託職員人件費) | 22,977 | 11,446 | 7,537 | 6,851 | | |
| | 正職員人件費[按分](B) | 295 | 319 | 364 | 849 | | |
| | トータルコスト(A)+(B) | 23,272 | 11,765 | 7,901 | 7,700 | 6,851 | 6,851 |

事務事業評価表(事業実施年度:平成30年度)

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

| | | |
|---|--|--|
| ① 事務事業を開始したきっかけは何ですか?いつ頃どんな経緯で開始されましたか? | ② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化していますか? | ③ 事務事業に対して関係者からどんな意見や要望が寄せられていますか?(誰からの意見か明記) |
| 昭和50年代頃から障害児等支援を必要とする児童を預かるようになったが、保育士等に知識がなく、とりえず保育士を配置した。 | 働く親が増加し、障害児等支援を必要とする児童も通常の保育所で保育することが多くなった。また、発達障害児等の理解が進み、保育士の知識や技術も向上し、安全に保育するだけでなく、保護者や療育機関等と連携を取りながら、発達を支援し、就学につなげていくようになった。 | 保護者から、障害児等支援を必要とする児童の保育施設が欲しいとの要望がある。障害児等の保育時間を制限しているため、保護者から、健常児と同じように預かってほしいとの要望がある。 |

(4) 昨年度の評価結果の取り組み状況調べ

| 昨年度の事務事業評価結果 | | 30年度の取り組み状況と今後の方針 | |
|---|------------------------|---|------------------|
| 事業の方向性 | 平成30年度の取り組み概要及び期待される効果 | 実施状況 | 実施できなかった理由と今後の方針 |
| <input type="checkbox"/> 廃止・休止 <input type="checkbox"/> 目的の見直し <input type="checkbox"/> 有効性改善 <input type="checkbox"/> 効率性改善 <input type="checkbox"/> 事務事業終了 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持・継続 | | <input type="checkbox"/> 記述どおり実施できた (コメント必要ありません) <input type="checkbox"/> 一部実施できた(理由→) <input type="checkbox"/> 実施できなかった(理由→) | |

2 評価(SEE)及び全体総括の部 * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

(1) 評価

| | 評価の理由 |
|---|--|
| 目的妥当性評価 ① 上位施策への貢献度は大きいですか? ※総合計画を参照してください <input checked="" type="checkbox"/> 貢献度大きい(理由→) <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう(理由→) <input type="checkbox"/> 貢献度小さい(理由→) | 働く保護者の就学前の障害児等支援を必要とする児童を保育し、安心して子育てができるようにする。 |
| ② 税金を使って達成する目的(対象と意図)ですか? (事業の目的は、総合計画の町の役割や基本方針に合っていますか?) <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である(理由→) <input type="checkbox"/> 妥当性が低い(理由→) | 児童福祉法第24条において、保護者の労働又は疾病その他の事由により、その監護すべき乳児、幼児その他の児童について保育を必要とする場合は、保育しなければならないと定められており、支援を必要とする子どもであるか否かにかかわらず保育をする必要があるため。 |
| 有効性評価 ③ 成果がこれ以上向上する余地(可能性)はありますか? <input type="checkbox"/> 成果向上余地がある (理由→) <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上余地がない (理由→) | 保育士の障害児に対する知識や技術の向上、また経験を積むことにより、より良い保育ができるようになるが、現在全体研修や臨床心理士による巡回相談時に指導・助言受け資質向上に努めている。 |
| 評価 ④ 廃止・休止した場合、成果への影響はありますか? <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり(理由→) <input type="checkbox"/> 影響なし(理由→) | 町立保育園にて、障害児等支援を必要とする児童だけではなく、全児童が安全な保育生活を行うことができなくなる。 |
| 効率性評価 ⑤ 現状の成果を落とさずにコスト(予算+事務従事時間)を削減する新たな方法はありますか?(広域連携や民間委託等の導入など) <input type="checkbox"/> ある(具体的な内容→) <input checked="" type="checkbox"/> ない(理由→) | 職員の事務としては、賃金の支払いのみとなるためこれ以上の削減は見込めない。ただし対象児童の増減により、嘱託職員にかかるコストは変更する。 |

(2) 30年度を振り返って(全体総括・反省点)

| |
|---|
| 障害児等に対する支援については、個々で対応が異なるため、担任と加配保育士は常に支援内容を検討し見直す必要がある。保護者や療育機関、巡回の臨床心理士等と連携を取りながら、クラス内はもちろんのこと全職員が共通認識をもって支援することができるよう、その都度会議や打ち合わせ等を実施した。また、臨床心理士による障害児保育研修会を実施し、町立保育園職員全体で保育の在り方等の知識や理解を得ることができた。 |
|---|

3 今後の方向性(31年度以降の計画と32年度予算への反映)(PLAN)

| (1) 今後の事業の方向性(複数選択可) | (2) 平成31年度以降に取り組む内容と期待される効果 |
|--|-----------------------------|
| <input type="checkbox"/> 廃止・休止(理由→) <input type="checkbox"/> 目的の見直し(内容→) <input type="checkbox"/> 有効性改善(成果向上)内容→ <input type="checkbox"/> 効率性改善(コスト削減)内容→ <input type="checkbox"/> 事業終了 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持・継続 | |